

## 衆院選後、始まった新年。 日本の政治に期待？ 失望？

浅田 野田佳彦首相の逆ギレ解散の結果、昨年12月16日の衆議院選挙で自民党が大勝、公明党と合わせて衆議院の3分の2を超える絶対多数を得て政権に復帰することになり、民主党は壊滅的な敗北を喫した。尼崎でも、公明党が冬柴鐵三元幹事長の引合い合戦と称して全力で議席を奪回、民主党が独自候補を立てたこともあって田中さんが敗北を喫したのは本当に残念だった。

田中 実は尼崎市選挙管理委員会は22時半を回っても開票速報を発表しないドタバタぶり(苦笑)。その一方、党首である山口那津男とのポスターは1枚も作らずに安倍晋三や橋下徹との握手ポスターを街中に張り巡らした国土交通省出身の公明党の新人がメディアの出口調査では優勢だったので、会見を開いて以下のコメントをした。

「強き助け・弱きを挫く」「大増税・TPP・放射能」に象徴される、間違いだらけな日本を『改国』すべく訴えた、先駆けた具体策に賛同くださり、尼崎を・日本を後戻りさせてはならぬ、との思いで一票を投じてくださった方々に心から感謝したい」とね。

今回も尼崎で生まれ育った友人の勝谷彦が全面支援してくれて、最終日も一緒に市内を駆け巡ったんだけど、年齢や地域に関係なく大変な好反応で、競り勝てるのはと彼も周囲も思ったみたい。投票日の朝に彼が発信したメルマガが実に的確なので少し引用するね。

「(3年前の)選挙では、私が選挙区に入った終盤辺りから、ようやく人々が公団住宅のベランダに姿を現したり、窓のカーテ

### 今月の憂いゴト

**田中康夫**  
衆議院選挙の結果から、  
角栄、大平の理念、  
中央と地方のあり方、  
トンネル崩落事故まで！

田中氏の新党日本尼崎支部の近くにある、江戸末期創業のかまぼこ屋さん「栞千」の揚げ物を頼張り、「うまい！」と田中・浅田両氏。手間ひまかけた栞千の揚げ物のように、歯ごたえとうま味のある日本に、今年こそ。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

**浅田 彰**

# 憂国呆談

season 2 VOLUME 31

ンの内側から手をそと振ってくれたりしたものだ。今回は全く違う。選挙カーを見付けると、あちらから手を振ってくれる。対向車がクラクションを鳴らして声援を送ってくれる」

「幾つかの市場を歩くと、店の中からおっちゃん、おばちゃんが飛び出してきて、手を握る。奪うようにビラを持って行つてくれる。いや、それどころか渡そうとする『もう持つとんで』とポケットから出して見せてくれる」

「最後は阪神尼崎駅前で、二人でマイクを握った。ずぶ濡れになるほどの降りなのに、傘を持った聴衆の方々は身じろぎもしない。その数が、どんどん増えてくる。日本国の民主主義は少なくともここでは死んではいない。この『種』があれば、陽はまた昇ると私は確信した」

でも、「国防軍創設」を唱える自民党総裁、「最低賃金撤廃」を訴える維新の会代表代行と握手するポスターを街中に張り巡らすも、所属する「福祉と平和の党」代表との写真は一枚も印刷しなかった候補者。前回選挙で僕と対戦して昨年末に急逝した公明党の冬柴鐵三元幹事長が大臣を務めた国土交通省の元課長補佐で、小学校から関西創価学園、東京大学卒業の京都市出身34歳が当選しちゃうんだから、大きな組織の都合や面子のマグマは無視できないね。

不思議と尼崎では国土交通行政の懸案事項が滞っていて、国道43号線も山手幹線も、この3年間で具体的に動き始めたんだ。前者の「尼崎大気汚染公害訴訟」は11年前に和解したものの、原告団の要望と国の提案には隔たりが大きくて膠着状態だったのを、僕が双方の関係者と対話を重ね、国道43号線の大形車通行を中央分離帯側の1車線に

誘導する新方針で合意を得て、3つの交差点にエレベーターも設置される運びとなった。神戸から尼崎まで兵庫県内は全通したものの、大阪府豊中市側への延伸の目処が付かなかった都市計画道路の山手幹線も、僕の提案を受けて大阪府、兵庫県、豊中市、尼崎市、国交省近畿地方整備局の担当者が協議する調整会議が新たに発足し、現在は地上を走る豊中側の阪急神戸線を高架とする具体的延伸計画が検討されることになった。でも、田中は何もしていない、と、ディ

スる人もいるんだから難しいね。浅田 民主党は3年3か月ちよつとで政権から滑り落ちることになった。政権交代で改革が実現するかと思わせながら結局は幻滅に終わったわけで、その罪は重い。そもそも、政治主導っていうけど、大学院のセミナーみたいな議論で実際の行政を動かせると思つたのは甘いよ。結果、財務省の智慧を借りるはかなくなり、最終的に財務省の望む消費税増税を実現しただけに終わった。原発震災と復興への対応もお粗末で、原発依存と言いつつ大飯原発再稼働を認める始末。

自民党の側からすれば、自分たちが強引に推進してきた原発の問題を代わりに引き受け、人気のない増税までやった上で、政権を返してくれるんだから、民主党様々つてとこでしょう。

他方、石原慎太郎は尖閣諸島をめぐる騒ぎでナショナリズムに火をつけ、橋下徹とポピュリスト連合をつくって、あわよくば政権獲得を、と思つたのかも。ところが、ナショナリズムの高揚の余波で、安倍晋三が石原伸晃をおさえて自民党総裁に選ばれ、



憲法を改正して自衛隊を国防軍にするなんていう、従来の自民党の常識を超えた極端な公約を掲げて、選挙に勝ちちゃった。国民が改革疲れしてるわけだから、本当は自民党としては「うちは常識のある老舗だ」つてことで、前総裁の谷垣禎一のまま行つてもよかつたのに。

いわゆる第三極について言えば、石原・橋下組のタカ派と、嘉田由紀子・小沢一郎のハト派に分裂して、票を集中できなかったのが痛かつたね。つまるところ、石原が火をつけたナショナリズム旋風の果実を安倍自民党がかつさらった形。小選挙区制だと極端に揺れやすい、それが如実に出た。しかも、かつての自民党に戻っただけじゃなく、異様にタカ派化した自民党になつたわけなんで、これだからが大変だ。

田中 前にも述べたけど、安倍は祖父の安倍寛を参考にすべきだよ。金権腐敗打破を掲げて東条英機の軍閥主義を批判し、1942年の翼賛選挙でも大政翼賛会の非推薦候補として出馬・当選した彼は、富国裕民の政策を主張している。良い意味での先祖返りを求めたいけど、どうだろうね。そうそう、今回の選挙は戦後最悪の低投票率。他方で憲法を巡る国民投票が実施されたエジプトでは、国民が長蛇の列を作って投票時間が延長された。何十年か後にタフな民主主義を掲げているのは、どちらの国だろうと勝負が慨嘆していたけど、本当だね。

余談だけど、実は尼崎では今回、委員と委員長の人選案を市議会が提出・選任する選挙管理委員会が「突然の衆院解散で準備が間に合わなかった」と、通常は期日前投票が始まる公示日翌日には届く投票所整理

券の発送を1週間も遅延させる一方、整理券なしでも投票可能と大書きした18ページにわたる全投票所の案内地図を公示翌日に全戸配布して、地元地理に不案内な有権者にも優しい配慮を行ったんだ(苦笑)。

浅田 他方、東京都知事選挙でも、石原慎太郎前知事が後継に指名した猪瀬直樹が史上最多の得票を得て当選。そもそも石原人気がつてのが不可解だけど、猪瀬がここまで支持されたのはホントに理解できないな。

猪瀬の選挙事務所を駆けつけて当選を祝った東浩紀は、猪瀬はツイッターを使つてから石原と違って素晴らしいって言った。現に猪瀬が最初に出した指示は、全部局がツイッター・アカウントをつくらせて情報発信を強化すること。しかし、だったらツイッターで大人気の橋下徹も素晴らしいってことになるんじゃないの(苦笑)。

とにかく、猪瀬つてのは、枝葉末節をウジウジつくだけで、見てただけでうんざりするよなやつなのに。

田中 小泉純一郎が首相の時、自分を国土交通大臣にしてほしい、その電話を官邸にかけてほしいと田原総一郎に頼み込んで、さしもの田原も断つたという身の丈をわきまえぬ人物ですから。信州大学の学生運動で全共闘委員長として君臨し、国労「国鉄労働組合で書記を務めていたと朝日新聞が人物紹介した御仁で、自尊心も高いから、はてさて、党本部と異なり、彼の擁立に難色を示していた都議会の自民や公明の面々どうなのかな。

浅田 石原のように大言壮語するんじゃない、具体的な問題をひとつずつ解決していくつていうポーズが受けたのかな。地下鉄の統合のようなマイナーな問題さえ、実はほとんど解決してないんだけど(苦笑)。

田中 石原が思いつきで食い散らかした新銀行東京、オリンピック、築地市場と数々の難題を首尾よく敗戦処理できるかどうか、お手並み拝見だね。

### 特例公債法案が通過。国の借金はますます膨らむ？

浅田 いずれにせよ、「国民に信を問う」なんて言われても、国民としてはどうにも選びようのない総選挙だった。民主党と自民党に加え、石原・橋下の日本維新の会、嘉田・小沢の日本未来の党、その他、覚えきれないくらい党ができたものの、どれも持続可能性の乏しい選挙互助会でしかなく、それぞれの中にタカ派とハト派、「小さな政府」派と「大きな政府」派が同居してると

だから。前号で田中さんが言ったように、エルメスとシャネルを同じ店内で売ってるアウトレットみたいなもの。この際、田中さんの新党日本のように、それぞれの議員が独立のブティックとして選挙を戦い、勝ち上がった後で、タカ派かハト派か、「大きな政府」か「小さな政府」か、ポリシーに従ってグループに分かれるべきだったんだよ。どうせ7月の参院選でまた一悶着あるんだから、それまでに抜本的な「政界再編」が絶対に必要だと思うね。

田中 解散前に民自公が結託して特例公債法案を通し、おまけに2013年度から15年度までの3年間、国会の審議なしで予算と一体で処理できるようにルール化したけど、それはまさに、戦時国債を青天井で出せる予算を軍部が求めたときに政府も国会も阻止できなかったのと同じこと。「今後、どういう枠組みになっても3党で守る。与野党を超える国会の知恵が実現した」と豪語した野田の発言を、三木武夫内閣で大蔵

大臣だった大平正芳はどういう気持ちで聞いているだろうね。税収減を補うためにやむなく赤字国債を発行した大平が、それを特例法として国会を通した深意を野田は知らないんだろう。

浅田 特例法だと、毎年、国会で審議しなきゃいけない。大平はあえてそれを選んだ。毎年、苦勞することで、財政再建の必要を再認識すべきだ、と。それなりの見識だったと思うよ。

田中 特例公債法って一見、ポジティブな名前に聞こえるけど、要は赤字国債を発行するための法律だからね。声高に財政規律を唱えて消費税増税を画策する一方で、赤字国債の垂れ流しを主導する二枚舌な財務省は、「財政規律」の言葉自体を放送禁止用語にすべきでしょ(苦笑)。

浅田 安倍晋三は外交ではタカ派であると同時に、内政では新自由主義に接近してリフレ政策を唱えている。国債を日銀に無制限に引き受けさせるとかね。それが禁じ手だつてことは世界の常識だよ。さすがに安倍も、直接引き受けじゃなく市場を通しての買いオペだつて修正したけどね。安倍は自分の発言で株価が上がつたつて威張つてるけど、それは瞬間的な反応で、市場も安倍



#### 田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。  
一橋大学法学部卒業。大学在学中に「なんとなく、クリスタル」で文藝賞受賞。  
長野県知事、参議院議員、衆議院議員を経て、現在、新党日本代表。

の非常識に呆れてるんだよ。そもそも需要が不足してるところにいくら資金を供給しても景気は浮揚しない、それはいまや誰の目にも明らかでしょう。

田中 2030年代の原発廃止を民主党は掲げているけど自民党は違う、と居直る野田も呆れたもんだ。就任直後の2011年9月には、原発なしでは日本は立ち行かない、と「ウォール・ストリート・ジャーナル」で言つたのにな。しかも、マグロで知られる大間の原発計画は既に政府が認可しているの、続行か中止か、民間企業の電源開発Jパワーの判断に委ねるって発言は一体、何なの？ だつたら、政治なんて存在しなくていいって話だ。二重、三重の意味で「政治主導の初心忘れる」つてのが民主党のポリシーなんだね。

日本未来の党の嘉田も「卒原発」というスローガンを掲げたけど、「卒」と「脱」はどう違うんだという言葉遊びでしかない。再稼働を認めなければ即時・脱原発でしょ。で、全ての原発を10年間で廃炉にしてこそ新しい公共事業。原発は安全です、と虚勢を張つたつて、優秀な若者が原子力工学科に進学するはずもなく、逆に安全を保つ技術力は低下していく。

まあ彼女は、滋賀県内に新幹線の新駅建設は「もったいない」と反対して知事に当選したのに、リニア新幹線が通るとなると一転、「新駅が必要」と手のひらを返して失笑を買つた人だからね。「卒原発」も橋下と似たり寄つたりで信用できない。左側の櫻井よしこを演じられると小沢は買い被つてしまったのかな。

浅田 原発から卒業するまでのカリキュラムを作るつて言うんだけど、民主党の脱原発依存とどこが違うのか。

田中 ましてや、橋下も嘉田も河村も自分を出ないんだから、リスクはゼロ。すがつてきた候補者をノアの方舟の甲板から上つてこいと手も差し出さずに言つてるようなもの。それにしても、05年に新党日本を立ち上げたときには、地方の首長が政党代表なんてけしからんとマスメディアに袋叩きにされたけど、橋下の動静が毎日、公務なしと新聞が報じてても何も言われない時代になつたのは、日本人が寛容になつたのか、劣化したのか、あるいは、鈍感になつたのか、感慨無量だね(苦笑)。フランスは国会議員と首長を兼務する例も多く、大統領になる前のジャック・シラクもパリ市長と国会議員を兼務していたけど、予算と人事を差配する首長の経験自体は大切だよ。国会議員の経験だけで大臣に就任しても、役人の手の上で踊らされるだけだから。



地方都市の発展の仕方、させ方があることを日本人は理解していない。  
人口の少ない街にいかにか投資するか。(田中)



### 国土の均衡ある発展、そのビジョンは正しい

浅田 今月の特集のテーマは「移住」つてことだけど、まずは福島原発被災地の住民がコミュニティごと新しい場所に移住するのが先決だと思うな。

田中 埼玉県加須市の廃校になつた県立高

等学校の校舎に避難所を設けて、役場機能も移転している双葉町の方々ははじめ、日本各地に避難している福島県民の方々は、今回の選挙でも改めて「棄民」状態の自分たちを痛感したと思う。

福島県内に点在する仮設住宅へと集落から引き離されて移住させられた高齢者は、認知症の度合いが高まってしまふ。以前から述べているように、東京電力福島第1原子力発電所「フクイチ」周辺30キロ圏内は「放射能に占領された領土」と国が認め、当該住民には複数の「新しい町」を北関東をはじめとする全国に用意し、職業と住居を保証すべきなんだ。今から123年前に大洪水に見舞われた奈良県・十津川村の住民が、北海道に新十津川町を建設しように。川に流れ込む除染は「移染」に過ぎず、アスベスト被害や水俣病をはるかに上回る悲劇を生み出す蓋然性が極めて高いし、人口6000人弱の飯館村に限っても3200億円、住民一人あたり5000万円を投じて、東電関連会社やゼネコンが元請けで除染を行うなら、「新しい町」建設こそ裾野の広い経済効果と希望を与えてくれる。

維新の会の橋下が消費税の全額地方税化を唱えているけど、随分と乱暴な都会の論理というか強者の理屈だね。この机上の空論が実現可能なのは、東京と大阪くらいだよ。阪神間の人口集積地を抱える兵庫県だつて、日本海側の中山間地域も存在するから、仮に消費税率を10パーセントに上げたとしても、それだけで地方財政が賄えるはずもない。鳥取県や島根県に至っては、消費税を25パーセントにしても賄えないよ。まさに、この国のかたちではなく「あり方」が問われているんだ。交付税という補完機能がそのものがないのではない。交付税



## どうせ7月の参院選でまた「悶着あるんだから、それまでに抜本的な「政界再編」が絶対に必要なと思うね。(浅田)

が上から目線で、族議員や族団体への利益誘導の温床になっていることが問題なんだよ。消費税を全額地方税化すれば地方主権だなんて単純な発想は、東京や大阪にしか住んだことがない人間の発言。僕も都会にだけ暮らしていたら、地方は無駄だと考えていたかもしれない。でも、そうじゃないんだよね。

浅田 逆に言うと、消費税をすべて地方税化したら、中央よりレヴェルの低い地方の官僚とドブ板政治に食い荒らされるだけかもしれないしね。かつて田中角栄の唱えた「国土の均衡ある発展」は、地方に金を流し、そこからリベートをすくい取る手段として、金権政治を生み出したわけだけだ。理念としてはあながち間違いないとは言えない。とくに、東京に人や産業が集中することで地震等の災害のリスクも高まるから、リスク分散という点でも正しい。真の地方分権を通じて「均衡ある発展」を実現していくことが重要だと思ふよ。震災を契機に、そういう意味での「日本列島再改造」を考え直すべきなんだ。

田中 アメリカのアトランタだつて40万人程度の街。そこに「世界で最も忙しい空港」と呼ばれるアトランタ国際空港があつて、



ハブ空港としての役割を果たし、そこからさらに地方へ飛行機が飛び立っている。パリに次ぐフランス第2の都市マルセイユだつて約80万人、リオンはもっと小さな街。地方都市の発展の仕方、させ方があることを日本人は理解していない。人口の少ない街にいかん投資するか。

浅田 それと関連して強調しとかなきゃいけないのは、これ以上さらに新幹線や道路をつくらうとする前に、古くなったインフラストラクチャーを点検整備し、必要があればつくりなおす、場合によっては解体するってことも大事になってきていること。こないだハリケーン・サンディに襲われたニューヨークでも、地下鉄まで含めたインフラストラクチャーがあまりに古びて、全面的な改修・再建が必要になっている。日本でも中央道のトンネルで天井が崩落して9人も死亡する事故が起きたけれど、ポルトの打音調査をしてなかったのは問題外として、つくつたらそれで終わりっていう姿勢を抜本的に考え直すきっかけにすべきだと思う。公共事業は悪だつていうけれど、安全のためにインフラストラクチャーをつくりなおす、あるいは環境にやさしい形に変えていくといった公共事業は、むしろこ

れからますます必要になる。それは、原発の廃炉や放射性廃棄物の処理が新しい公共事業になると似てるんだよね。

田中 まさに「保守点検」こそが大事なんだ。日本は村道をつくる際にも費用の65%を国が補助する。でも、道路の維持修繕やガードレールの設置費用は全額、地元負担なんだ。交付税措置があるとはいへ、交付税そのものが減少しているから、滞っている。だから政権交代時、鳩山由紀夫に直訴したんだ。麻生太郎政権の最後に組んだ補正予算3兆円の中の1兆円で、全国のトンネルと橋の緊急強度点検を3か月で行い、前倒しで年末から補強工事を行って、地域雇用を生み出すべきだと。でないと、アメリカと同じで橋が落ちちゃいますよと。残念ながら聞く耳持たずで、今回の惨劇につながっているんだけど、それは自公政権時代も同じでね、トンネルの強度点検基準を国交省が明確化していなかったこと自体がある種の殺人教唆罪でしょ。それでいて、国土強靱化計画に200兆円だなんて胸を張っている。社会資本の効率的な老朽化対策こそ不可欠なんだ。それこそは、すぐには構造転換できない地域の土木建設業に雇用を生み出し、地域経済を活性化させる新しい公共事業のあり方なんだ。

福岡伸一ハカセの言葉を改めて借りれば、人間の身体には60兆もの細胞があつて、脳という東京や、心臓という大阪が全ての指示を出しているのではない。一つひとつの細胞が冷たい、温かい、痛い、心地よいと自律的・自発的に認識して対応しているんだ。そうして、我々の身体はもはや、身長が伸びることはないけど、骨や関節をいたわるのが、骨粗鬆症を防ぐうえで大事なんだ。国土もそうだよ。(敬称略)

### 浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学大学院長。83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

